

中学生の「税についての作文」

福岡県筑後県税事務所長賞

税がある社会とない社会を比べて

大川市立大川桐英中学校

一年 龍 愛 純

私たちの生活に欠かすことのできないものの一つに「税金」があります。税金と聞くと、毎日の生活で負担になるもの、できれば少ない方がよいと思う人も多いかもしれません。

しかし、もし税がなかったら、社会はどのようなようになってしまっただろうか。税がある社会とない社会を比べて考えてみると、税の大切さがよく分かります。

まず、税がある社会では、国や地方自治体はそのお金を使って公共のサービスを提供できます。道路や橋、鉄道などはすべて税によって支えられています。たとえば、私たちが毎日安心して学校へ通えるのも、校舎の建設や先生の給料に税金が使われているからです。また、病気やけがをしたときに病院へ行けば健康保険制度によって治療費の一部を国が負担してくれます。これらはすべて税金があるからこそ成り立っています。一方でもし税金がない社会を想像してみるとどうなるでしょうか。まず、学校は有料になり、お金を持っている人しか通えなくなります。病院の費用も全額自己負担となり、

経済的に余裕がない人は病気になっても治療を受けられませんが、警察や消防も税金がなければ維持できないかもしれません。道路や公園などの公共施設も整備されなくなり、私たちの生活は非常に不便で危険なものになってしまいます。

つまり、税がない社会では、一人一人が自分で生活を守らなければならなくなり、格差が広がります。お金のある人だけが教育や医療を受け、貧しい人は、最低限の生活さえも難しくなります。その結果、社会全体の安心や安定が失われ、暮らしにくい世の中になっていくでしょう。もちろん、税金を納めることは、簡単ではありません。働いて得たお金の一部を国に納めなければならぬため、損をした気持ちになることもあります。しかし、そのお金は私たちの生活を支える大切な基盤となっています。自分の税金が直接どこに使われているかは見えにくいかもしれませんが、日々の生活の安全や安心の中に確かに生きています。

税がある社会とない社会を比べてみると、税は私たちが互いに支え合って生きるための仕組みであると気づきます。一人一人が税を納めることで、教育や医療、福祉が平等に受け入れ、すべての人が安心して生活できる社会が守られているのです。私はこれから大人になり、働くようになってから、税を納める立場になります。そのときには税を負担と考えるのではなく、自分や周りの人々の生活を守る大切なお金だという意識を持つて納めたいと思います。